

皆様ご無沙汰致しております。私、昨年10月より今年の1月9日迄の間、我が歳も考えず『Outbreak! なに?なに?なに?』というワークショップに、若い女性に混じって踊りとテキストの演劇に参加しておりました。

と申しますのも、鹿児島中央高校の10期後輩の酒匂かよ子さんが、ニューヨークで“クロタマ企画”という演劇や踊りを主宰していましたのが、この度のコロナ禍で世界中がパンデミックになっている中、これから我々はどのような風にコロナと向かい合っていけばよいのか?一つの形として、踊りやテキストで表現してみよう!という企画を提案してこられたからでした。

歳も考えず、向こう見ずというか無鉄砲というか、演劇の“え”の字も知らないのに、週に2回、1回3時間ほどの練習を繰り返してこの劇を創り上げていくという体験は、とても新鮮で練習では体幹も鍛えられるというものでした。しかしコロナである現状からすれば、舞台上で人を集めて密になる事は避けなければならず、撮影で撮り貯めたものを編集してYou-TubeにUPするのが、一番賢明であるという企画に落ち着きましたそうです。

撮影の会場は、鹿児島市内の旧刑務所跡地—現在の鹿児島アリーナの石舞台、旧県庁跡地—現在の県政記念館正面玄関、吉野公園の3カ所でした。

12月18日・19日、1月8日・9日の4日間で撮影が行われ、その後編集されて2月21日からYou-tubeにUPされています。そして2月28日からは英語版にも翻訳されて全世界に発信されております。

余り長くなるのは、視聴者も退屈されるだろうと想像して、25分程に集約されていますので、是非見られて感想をお聞かせください。

実を申しますと、叱られまくりながらの日々でした。最初の基本練習でも、参加者の女性達は足は180度開脚、屈伸でも胸が床にペタッと着くのに…さて私はといえば足は90度、上体は30度しか曲がりません!!
踊りを踊るの一つとっても、覚えが悪くて『牧迫さん!!一人違うでしょう!?!』と足を引っ張るばかり…なのでした。

『コロナに対して自分がどう思うかを作文用紙2枚に書いてきて下さい。』と言われたので、書いていたら…『これを丸暗記して、どういう動作を指示されても動きながらスラスラと話せるまでになってください』という始末。

役者さんというのは、動きながら完璧にセリフを言ってるけど、それがいかに大変なことなのかを思い知りました。

『コロナで私の生活スタイルはどう変わったのか?私の生活は殆ど変わってないです。だって、インフルエンザもコロナも、何処にいても罹る時には誰でも罹るものでしょう? ここ数年で注意深くなった事といえば、手洗いの励

行とマスクの着用、そして三密に用心して行動する事。“目的が自分を磨く。目標が自分を引っ張る。すると希望も見えてくる。”これが私の生活信条です。

コロナは怖い！と皆さん言われますが、笑いの会広報部長の私は、いつも笑うネタをアンテナを張って見つけ、一日に3回以上腹の底からワッハッハッハ！！と大笑いするんです。するとね、免疫力が上がって病気も未病の内に退散してしまうんですよねえ～これが！

だから友人と逢いたい時も、旅行も、行きたい所へ行こう！と思ったらどこへでも行くんです。

昨年も9月は高知県梶原町…梶原町って知ってます？”土佐のチベット“と言われる山の中も山ん中…幕末に坂本龍馬が脱藩して伊予へと歩いて抜けた村でもあるんです。11月には青森県津軽市に夫婦で林檎狩りにも行ったんです。今年もメーカーさんと同行して積丹半島から神威岬、室蘭から虎杖浜へと行きました。虎杖浜って“たらこ”で有名な町なんですよ！そんな所へ現地集合の現地解散で、中部国際空港経由で一人旅して来たんです。

百周年を節目として、昨年1月末に会社も円満に閉められたと思っていた矢先にこのコロナ。“お前は本当に良い時に仕事を辞められて良かったなあ～”と、何人もの方から言われたんですよ。

仏様のお導きかなあ～』

これがテキストの全文です。これを動作をしながら、一言一句の間違ひも無く、淀みなくスラスラといえなければなりません。4日間の撮影のいろんな場所で、そのセリフを同じように言わなければ、あとで編集した時におかしくなるからでした。(作成は2021年10月から2022年1月でした)